弁事御役所

今般

御一新被

仰出候付而、三淵縫殿助儀

王事ニ尽忠仕度志願ニ而当三月江戸表発足

仕、 旧知濃州・江州等之内ニ御座候間、 直二尾州

表江罷出、 其筋江歎願仕候処、 先旧知行所之

内ニ引取

御再命御座候迄謹慎可罷在旨被 仰渡候

二付、 濃州安八郡今ヶ淵村ニ謹慎罷在、 最早数十

日ニ及候付、何分

御寬太之奉蒙

御沙汰度トノ趣、 家僕ヲ以越中守江歎願申出、

惣体三淵家之儀者越中守祖宗重縁之由緒

御座候処、同人儀

朝命遵奉之誠意相違無御座候 付、 既 二閏

四月委細以書附奉歎願置候処二、今

御沙汰も無御座候而ハ、 主従深恐懼罷在、 此節

猶家僕ヲ以越中守迄歎出申候間、 御内意奉

伺上候処、 右ハ縫殿助儀上京イタシ候様御達

ニハ難被及候得共、 同人ヨリ尾藩荒川弥五右衛門

江掛合候上、早々上京可然旨

御内沙汰被為在候付、 其旨家僕鈴木六太夫

と申者エ申聞候処、直様在所表エ罷越縫殿

助二申通、 直ニ荒川ニ掛合候中、 帰順在邑此迄

謹慎イタシ候処、最早不及其儀旨御廻達ヲ

奉戴候由ニテー同難有奉感佩、 不取敢先月

廿七日在所表出立、 同廿九日着京仕候、 右ハ縫殿

助よりも委細御届可申上候、以上、

辰ノ

七月二日 細川越中守内

内山又助